

MeBio 数学テキスト

昭和大学 2017 年 2 番  
確率の問題

—深読み—

# 第 1 章

## 問題と解答

**問題 1-1** 次の問いに答えよ。ただし、(1), (2) は答のみを解答欄に記入せよ。

公平なサイコロを 1 回振るごとに、偶数の目が出たら 1(万円) を獲得し、奇数の目が出たら 1(万円) を損失するという賭けを行う。所持金 0 でこの賭けを  $n$  回繰り返した際の損益額の合計を  $Z_n$ (万円) とする。ただし、 $Z_0 = 0$  とする。

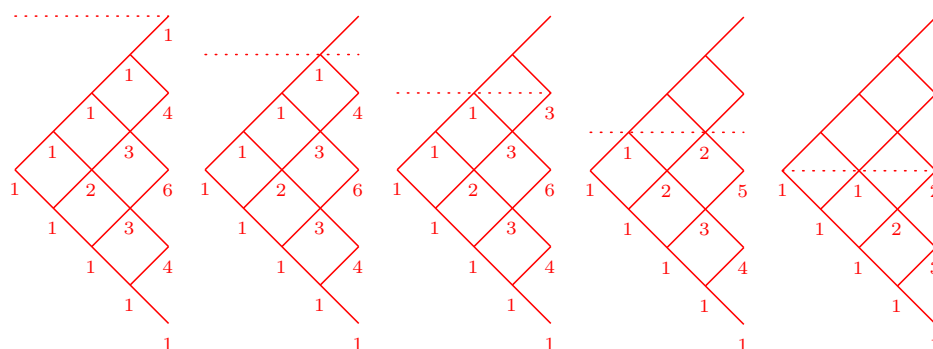
- (1)  $M_n = \max_{0 \leq i \leq n} Z_i$  とするとき、確率  $P(M_4 = k)$ ,  $k = 0, 1, 2, 3, 4$  の値をそれぞれ求めよ。ただし、 $\max_{0 \leq i \leq n} Z_i$  は  $0 \leq i \leq n$  における  $Z_i$  の最大値を表す。
- (2)  $T_n = \#\{i \mid i = 0, 1, 2, \dots, n-1, (Z_i = 0 \cap Z_{i+1} = 1) \cup (Z_i = 1 \cap Z_{i+1} = 0)\}$  とするとき、確率  $P(T_4 = k)$ ,  $k = 0, 1, 2, 3, 4$  の値をそれぞれ求めよ。ただし、 $\#A$  は集合  $A$  の要素の個数を表す。
- (3) 任意の  $k$  に対して  $P(M_5 = k)$  と  $P(T_5 = k)$  の間に成り立つ関係を求めよ。

**略解**

- (1)  $P(M_4 = 0) = \frac{3}{8}, P(M_4 = 1) = \frac{1}{4}, P(M_4 = 2) = \frac{1}{4}, P(M_4 = 3) = \frac{1}{16}, P(M_4 = 4) = \frac{1}{16}$
- (2)  $P(T_4 = 0) = \frac{3}{8}, P(T_4 = 1) = \frac{1}{4}, P(T_4 = 2) = \frac{1}{4}, P(T_4 = 3) = \frac{1}{16}, P(T_4 = 4) = \frac{1}{16}$
- (3)  $P(M_5 = k) = P(T_5 = k)$

**解答**

(1) 偶数の目が出れば右上、奇数の目が出れば右下に進むことにする。下の表より次の確率がわかる。

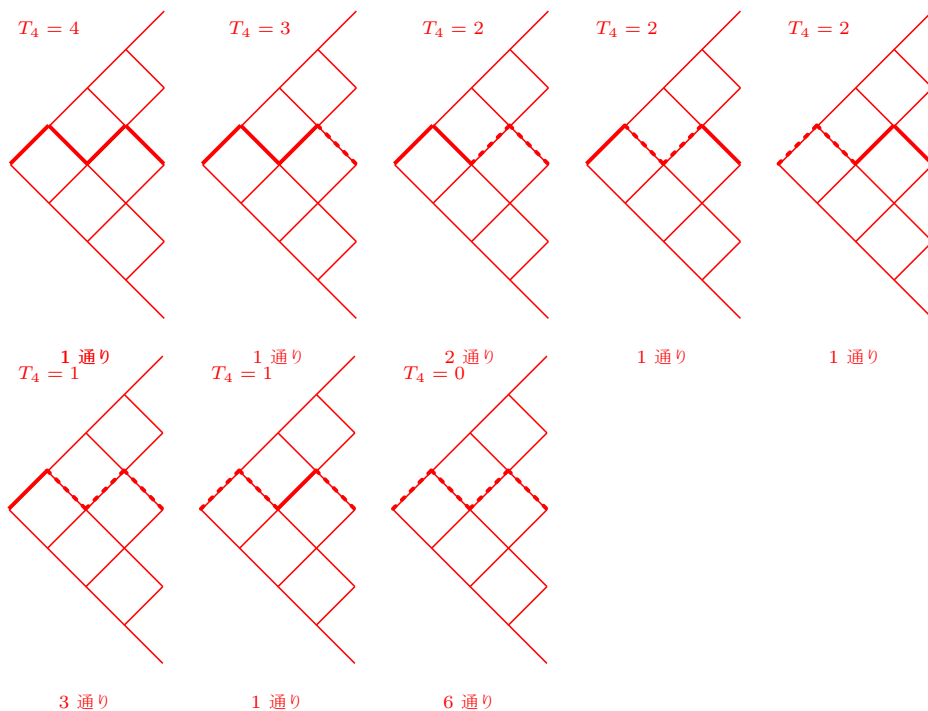


$$P(M_4 \leq 4) = \frac{16}{16}, P(M_4 \leq 3) = \frac{15}{16}, P(M_4 \leq 2) = \frac{14}{16}, P(M_4 \leq 1) = \frac{10}{16}, P(M_4 \leq 0) = \frac{6}{16}.$$

これより次を得る。

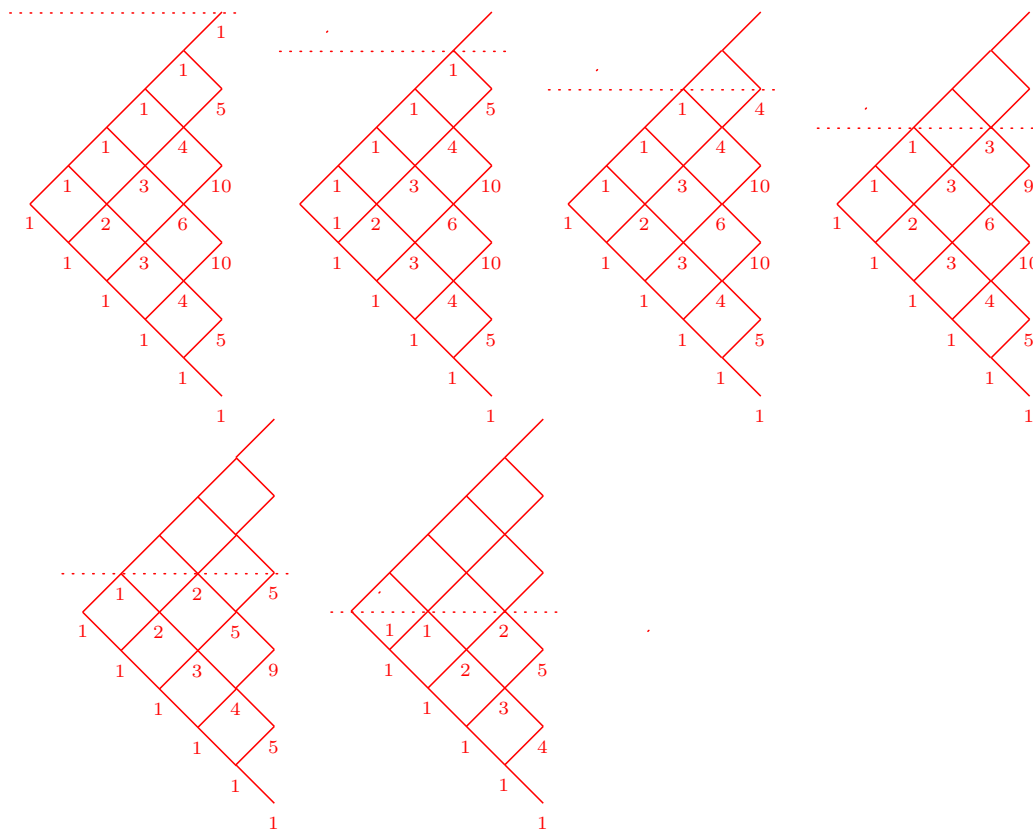
$$P(M_4 = 4) = \frac{1}{16}, P(M_4 = 3) = \frac{1}{16}, P(M_4 = 2) = \frac{4}{16}, P(M_4 = 1) = \frac{4}{16}, P(M_4 = 0) = \frac{6}{16}.$$

(2) 太線部を通り、点線部を通らない経路の数を数えればよい。



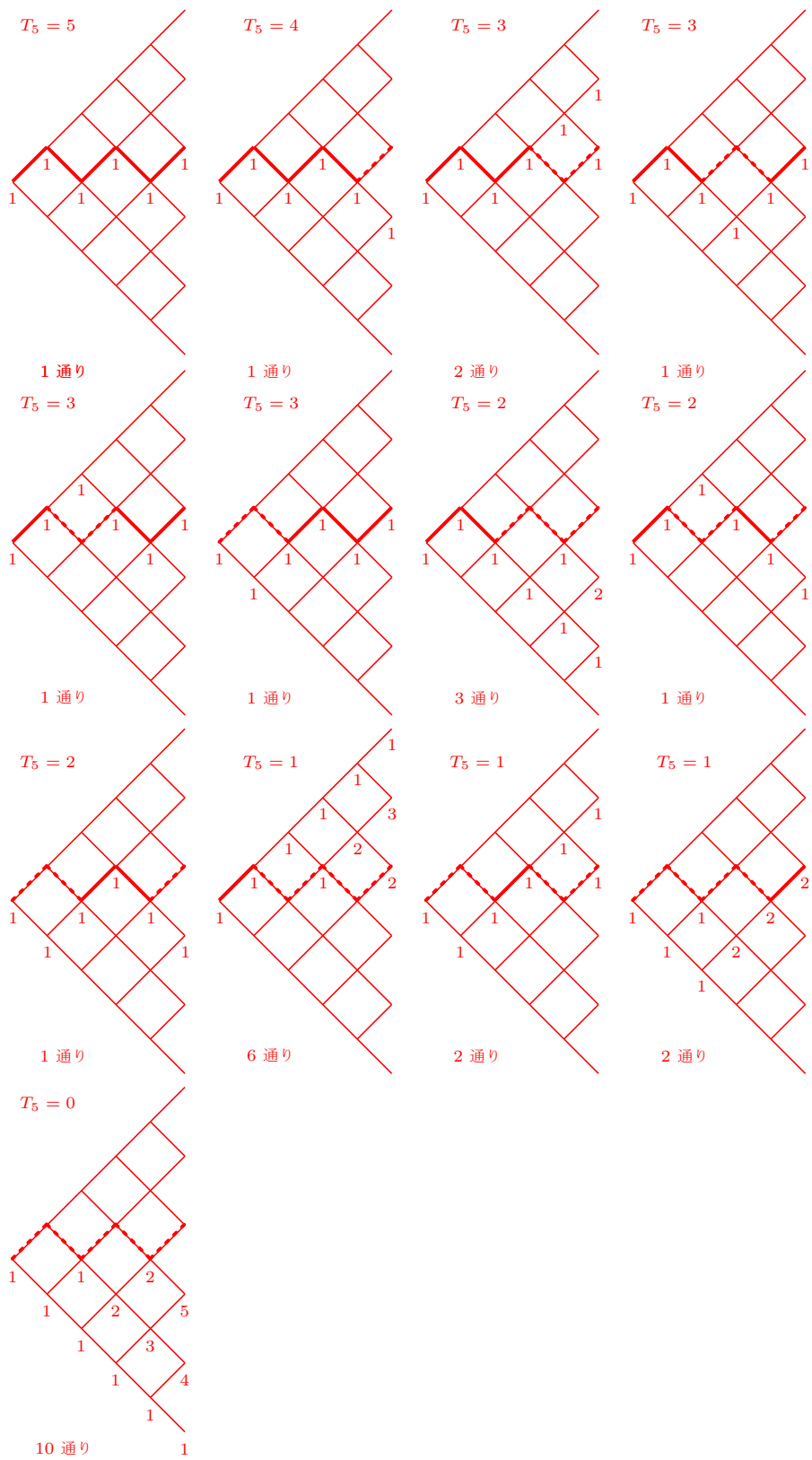
これより  $P(T_4 = 4) = \frac{1}{16}$ ,  $P(T_4 = 3) = \frac{1}{16}$ ,  $P(T_4 = 2) = \frac{4}{16}$ ,  $P(T_4 = 1) = \frac{4}{16}$ ,  $P(T_4 = 0) = \frac{6}{16}$  がわかった.

(3) (1), (2) と同じことを  $n = 5$  でやってみればよい。(もっと本質的に、任意の  $n, k$  に対して  $P(M_n = k) = P(T_n = k)$  が成り立つことが証明できる。ただしおそらく容易ではない。証明は亀井 HP.)



これより次を得る.

$$P(M_5 = 5) = \frac{1}{32}, P(M_5 = 4) = \frac{1}{32}, P(M_5 = 3) = \frac{5}{32}, P(M_5 = 2) = \frac{5}{32}, P(M_5 = 1) = \frac{10}{32}, P(M_5 = 0) = \frac{10}{32}.$$



これより次を得る.

$$P(T_5 = 5) = \frac{1}{32}, P(T_5 = 4) = \frac{1}{32}, P(T_5 = 3) = \frac{5}{32}, P(T_5 = 2) = \frac{5}{32}, P(T_5 = 1) = \frac{10}{32}, P(T_5 = 0) = \frac{10}{32}.$$

従って  $P(M_5 = k) = P(T_5 = k)$  ( $0 \leq k \leq 5$ ) がわかった.



これは逆操作も可能である。これにより  $M_n = k$  を実現する経路と  $T_n = k$  を実現する経路が 1:1 に対応することは容易にわかる。

## §2 $N(n, k)$ の具体的な値

次に考えたのは (鷹合さんからも指摘されたが),  $N(n, k)$  と  $S(n, k)$  が同じ漸化式を満たせば証明できるというものだった。しかし  $N(n, k)$  に関する漸化式は簡単にわかるが,  $S(n, k)$  に関する漸化式は簡単には求められそうになかった。

代わりにという訳でもないが,  $N(n, k)$  に関する漸化式から  $N(n, k)$  の具体的な値が導けることに気がついた。 $n$  を 0 以上の整数とする。  $k < 0$  および  $k > n$  の場合  $N(n, k) = 0$  と定義しておく。

**命題 2.1**  $N(0, 0) = 1, N(1, 1) = 1, N(1, 0) = 1$  である。  $n > 1$  に関する  $N(n, k)$  の値は次の漸化式で決定できる。

$$(1) \quad n \geq 1, k \geq 1 \text{ のとき } N(n, k) = N(n-1, k-1) + N(n-1, k+1)$$

$$(2) \quad n \geq 1, k = 0 \text{ のとき } N(n, 0) = N(n-1, 0) + N(n-1, 1)$$

**証明**  $k \geq 1$  とする, 一回目が偶数である場合,  $M_n = k$  となるためには, 残り  $n-1$  回の最大損益が  $k-1$  であることが必要十分である。また一回目が奇数である場合,  $M_n = k$  となるためには, 残り  $n-1$  回の最大損益が  $k+1$  であることが必要十分である。

$k = 0$  とする, 一回目が偶数である場合,  $M_n = 0$  となることはない。また一回目が奇数である場合,  $M_n = k$  となるためには, 残り  $n-1$  回の最大損益が 0 または 1 であることが必要十分である。  $\square$

この漸化式を適用すると,  $N(n, k)$  の値が次のように求められる。

$$N(0, 0) = 1,$$

$$N(1, 0) = 1, N(1, 1) = 1,$$

$$N(2, 0) = 2, N(2, 1) = 1, N(2, 2) = 1,$$

$$N(3, 0) = 3, N(3, 1) = 3, N(3, 2) = 1, N(3, 3) = 1,$$

$$N(4, 0) = 6, N(4, 1) = 4, N(4, 2) = 4, N(4, 3) = 1, N(4, 4) = 1,$$

$$N(5, 0) = 10, N(5, 1) = 10, N(5, 2) = 5, N(5, 3) = 5, N(5, 4) = 1, N(5, 5) = 1,$$

これを見ると次の予想が立つ。

**命題 2.2**  $N(n, k) = {}_n C_{\lfloor \frac{n+k+1}{2} \rfloor}$

**証明** 帰納法で証明する。  $n = 0, 1$  のときは正しい。  $n = m-1$  のときの成立を仮定する。  $k \geq 1$  の場合

$$\begin{aligned} N(m, k) &= N(m-1, k-1) + N(m-1, k+1) \\ &= {}_{m-1} C_{\lfloor \frac{m+k-1}{2} \rfloor} + {}_{m-1} C_{\lfloor \frac{m+k+1}{2} \rfloor} \\ &= {}_m C_{\lfloor \frac{m+k+1}{2} \rfloor} \end{aligned}$$

また  $k = 0$  の場合 (この場合  ${}_{m-1} C_{\lfloor \frac{m}{2} \rfloor} = {}_{m-1} C_{\lfloor \frac{m-1}{2} \rfloor}$  が容易にわかる。)

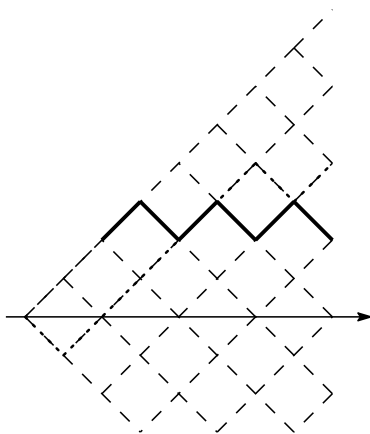
$$\begin{aligned} N(m, 0) &= N(m-1, 0) + N(m-1, 1) \\ &= {}_{m-1} C_{\lfloor \frac{m}{2} \rfloor} + {}_{m-1} C_{\lfloor \frac{m+1}{2} \rfloor} \\ &= {}_{m-1} C_{\lfloor \frac{m-1}{2} \rfloor} + {}_{m-1} C_{\lfloor \frac{m+1}{2} \rfloor} \\ &= {}_m C_{\lfloor \frac{m+1}{2} \rfloor} \end{aligned}$$

以上により証明された。  $\square$

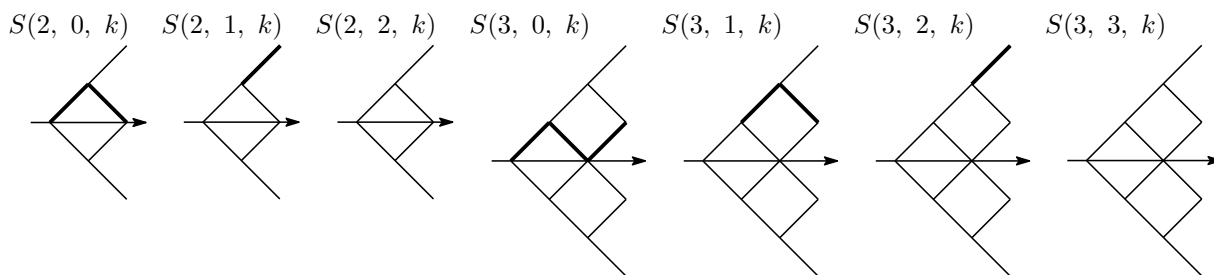
§3  $S(n, k)$  の具体的な値

$S(n, k)$  に関しては  $N(n, k)$  と同様の漸化式は成り立ちそうにない. そこでもう少し精密化して考えてみた.

道の数  $n$  の経路を一つ考える.  $0 \leq n, 0 \leq l \leq n-1$  に対し  $T_{n,l} = \#\{i \mid i = 0, 1, 2, \dots, n-1, (Z_i = l \cap Z_{i+1} = l+1) \cup (Z_i = l+1 \cap Z_{i+1} = l)\}$  とする.  $T_{n,l} = k$  を実現する経路の数を  $S(n, l, k)$  と置く. 先程定義した  $S(n, k)$  とは  $S(n, k) = S(n, 0, k)$  の関係がある.

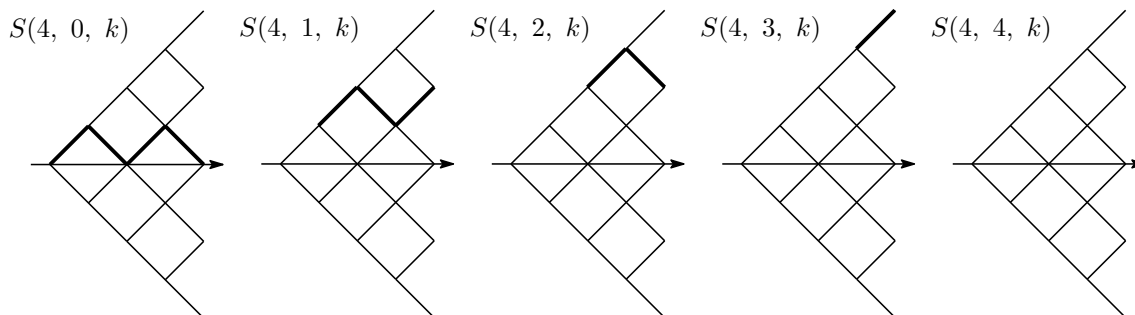


上の図の点線は  $T_{8,2} = 1$  となる経路の例である. 小さい数に対する  $S(n, l, k)$  の値を挙げてみよう.



$$\left\{ \begin{array}{l} S(2, 0, 2) = 1 \\ S(2, 0, 1) = 1 \\ S(2, 0, 0) = 2 \end{array} \right\} \left\{ \begin{array}{l} S(2, 1, 1) = 1 \\ S(2, 1, 0) = 3 \end{array} \right\} \left\{ \begin{array}{l} S(2, 2, 0) = 4 \end{array} \right.$$

$$\left\{ \begin{array}{l} S(3, 0, 3) = 1 \\ S(3, 0, 2) = 1 \\ S(3, 0, 1) = 3 \\ S(3, 0, 0) = 3 \end{array} \right\} \left\{ \begin{array}{l} S(3, 1, 2) = 1 \\ S(3, 1, 1) = 1 \\ S(3, 1, 0) = 6 \end{array} \right\} \left\{ \begin{array}{l} S(3, 2, 1) = 1 \\ S(3, 2, 0) = 7 \end{array} \right\} \left\{ \begin{array}{l} S(3, 3, 0) = 8 \end{array} \right.$$



$$\left\{ \begin{array}{l} S(4, 0, 4) = 1 \\ S(4, 0, 3) = 1 \\ S(4, 0, 2) = 4 \\ S(4, 0, 1) = 4 \\ S(4, 0, 0) = 6 \end{array} \right. \left\{ \begin{array}{l} S(4, 1, 3) = 1 \\ S(4, 1, 2) = 1 \\ S(4, 1, 1) = 4 \\ S(4, 1, 0) = 10 \end{array} \right. \left\{ \begin{array}{l} S(4, 2, 2) = 1 \\ S(4, 2, 1) = 1 \\ S(4, 2, 0) = 14 \end{array} \right. \left\{ \begin{array}{l} S(4, 3, 1) = 1 \\ S(4, 3, 0) = 15 \end{array} \right. \left\{ \begin{array}{l} S(4, 4, 0) = 16 \end{array} \right.$$

この表を見ると  $k \geq 1$  に対し  $S(n, l, k) = {}_n C_{\lfloor \frac{n+l+k+1}{2} \rfloor}$  という予想がつく.  $k = 0$  の場合は  $S(n, l, 0) =$

$2^n - \sum_{k=1}^n S(n, l, k)$  で出せばよいだけなので, 直接考える必要はない.

今までと同様  ${}_4 C_6$  や  ${}_4 C_{-1}$  など定義されない二項係数の値は 0 ということにする.

**命題 2.3**  $n \geq 1$  とする. 次の漸化式が成り立つ.

- (1)  $l \geq 1$  のとき  $S(n, l, k) = S(n-1, l-1, k) + S(n-1, l+1, k)$
- (2)  $l = 0, k \geq 1$  のとき  $S(n, 0, k) = S(n-1, 0, k-1) + S(n-1, 1, k)$
- (3)  $l = 0, k = 0$  のとき  $S(n, 0, 0) = S(n-1, 1, 0) + S(n-1, 1, 1)$

**証明** それぞれ一回目が偶数か奇数かに分けて考えればよい.  $S(n, 0, k)$  で一回目が偶数の場合は, (1, 1) 以降の進路を上下反転して考えることにより  $S(n-1, 0, k-1)$  であるとわかる. □

この漸化式を適用すると, 先程の予想が証明できる.

**命題 2.4**  $n \geq 0, 0 \leq l \leq n-1$  とする.

- (1)  $k \geq 1$  のとき  $S(n, l, k) = {}_n C_{\lfloor \frac{n+l+k+1}{2} \rfloor}$  が成り立つ.
- (2)  $l = 0, k = 0$  のとき  $S(n, 0, 0) = {}_n C_{\lfloor \frac{n+1}{2} \rfloor}$  が成り立つ.

**証明**  $n$  に関する帰納法で証明する.  $n = 0, 1$  のときは正しい.  $n = m-1$  のときの成立を仮定する.

- (1)  $l \geq 1, k \geq 1$  の場合

$$\begin{aligned} S(m, l, k) &= S(m-1, l-1, k) + S(m-1, l+1, k) \\ &= {}_{m-1} C_{\lfloor \frac{m+l+k-1}{2} \rfloor} + {}_{m-1} C_{\lfloor \frac{m+l+k+1}{2} \rfloor} \\ &= {}_m C_{\lfloor \frac{m+l+k+1}{2} \rfloor} \end{aligned}$$

$l = 0, k \geq 1$  の場合

$$\begin{aligned} S(m, 0, k) &= S(m-1, 0, k-1) + S(m-1, 1, k) \\ &= {}_{m-1} C_{\lfloor \frac{m+k-1}{2} \rfloor} + {}_{m-1} C_{\lfloor \frac{m+k+1}{2} \rfloor} \\ &= {}_m C_{\lfloor \frac{m+k+1}{2} \rfloor} \end{aligned}$$

- (2)  $S(m, 0, 0) = 2^m - \sum_{k=1}^m S(m, 0, k)$  より成り立つ.

以上により証明された. □

**結論**  $S(n, k) = S(n, 0, k) = {}_n C_{\lfloor \frac{n+k+1}{2} \rfloor} = N(n, k)$  が証明できた.